

関係機関長 殿

沖縄県病害虫防除技術センター所長名
(公 印 省 略)

病害虫発生予察技術情報について

令和5年度 病害虫発生予察技術情報 第2号を発表しましたので送付します。

令和5年度 病害虫発生予察技術情報 第2号

マンゴーの収穫後の管理について

マンゴーは果実肥大期から収穫期の間は病害虫防除が難しく、来期以降の病害虫発生を抑えるためには収穫後の病害虫防除管理が重要になります。来期の高品質果実生産に向け、防除対策に取り組みましょう。

1 耕種的防除・・・マンゴーの生育しやすい環境づくり

・土壌pH 管理や排水対策

マンゴー最適土壌はpH5.5～6.5、排水性のよい土壌が適しているといわれています。園地状況を踏まえた土壌改良、排水性改善を行い、樹勢回復を促すことで病害虫に負けない樹づくりを行いましょう。

・雑草管理

園地内で見られる雑草のひとつであるナガエコミカンソウはチャノキイロアザミウマの発生源として知られています。雑草は病害虫の発生源となるので除去を徹底しましょう。



ナガエコミカンソウ

・剪定残渣の除去

毎年、園地内の剪定残渣等を園地外に持ち出すことで、炭疽病・軸腐病の発病率が減少することが明らかになってます。収穫後の剪定枝は園地外へ持ち出し処分しましょう。

落下果実や病害虫被害果実など処分果実については、そのまま廃棄せず、ビニール袋へ入れて密閉処分するか、園地外で埋没処分してください。



果実の病徴 (炭疽病)



果実の病徴 (軸腐病)



袋の口はしっかり閉める

2 物理的防除・・・資材等を活用して病害虫侵入を防ぐ

・施設の入口・側面のネット被覆

被覆ネットに破れ・ほつれがある場合は早めに補修し、害虫の侵入を防ぎましょう。

3 化学的防除・・・農薬を用いた病虫害防除

・マンゴー収穫期後半頃から、新梢発生に伴い以下の害虫増加が観察されます。園地内をよく観察し、早期防除に努めましょう。

① マンゴーハフクレタマバエ

【発生生態】

- ・雌成虫はマンゴーの新葉(葉身が2～6mm)に産卵する。
- ・幼虫は成熟(卵から約5日間)すると虫こぶから脱出し、地中で蛹化する(約6日)。
- ・成虫寿命は1～3日程度と推察される。

【植物体への被害】

幼虫に加害された葉には1.5～3mmの円形の虫こぶが形成される。幼虫脱出後、虫こぶは葉から脱落するため被害痕は孔となり、高密度に加害された葉は落葉が早まる。また、被害痕に炭疽病菌が感染することが多く、いっそう落葉が促進される。

【防除方法】

- ・防虫ネットで被覆し、成虫の飛来・侵入を防ぐ。
- ・繁殖スピードが早いため、黄色粘着トラップなどの利用で早期発見に努めるとともに、初期防除を徹底する。
- ・高湿度条件下で幼虫や蛹の生存率が高まるため、施設内の湿度管理に注意する。



マンゴーハフクレタマバエ



タマバエ被害葉

② チャノキイロアザミウマ

【特徴】

- ・成虫の体長は雌約0.9mm、雄約0.8mmで体色は雌雄ともに黄色。前翅は灰色を帯び、閉じると中心部に縦の黒筋状が見られる。

【植物体への被害】

- ・新芽や硬化前の葉については黄変、甚だしい場合は葉縁部から巻き上がり褐変・落葉する。
- ・幼果期の果実が加害されると、肥大とともに果皮がかさぶた状に褐変し、著しく商品価値を損ねる。

【防除方法】

- ・施設内が乾燥しないように管理する。また、本種は水滴に弱いことから、2～3日に1回程度、新葉中心に散水する。
- ・除去した新葉は、施設外で処分する。
- ・施設は防虫ネットで隙間なく被覆し、成虫の飛来・侵入を防ぐとともに、黄色粘着トラップなどの利用で早期発見に努める。
- ・薬剤抵抗性が発達しやすいため、同一系統の薬剤を連用しない。



チャノキイロアザミウマ



アザミウマ被害葉

★詳しくは沖縄県病虫害防除技術センターにお問い合わせ下さい★

TEL：(本所)098-886-3880、(宮古駐在)0980-73-2634、(八重山駐在)0980-82-4933

ホームページアドレス：

<http://www.pref.okinawa.jp/site/norin/byogaichuboj/index.html>